



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ウォーレン・バフェットの大型買収など受け上昇—

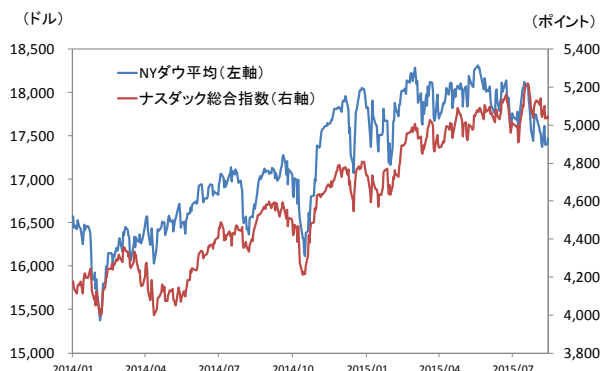
	前週終値	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,373.38	17,615.17	17,402.84	17,402.51	17,408.25	17,477.40	+104.02	+0.60%
騰落幅		+241.79	-212.33	-0.33	+5.74	+69.15		
S&P500	2,077.57	2,104.18	2,084.07	2,086.05	2,083.39	2,091.54	+13.97	+0.67%
騰落幅		+26.61	-20.11	+1.98	-2.66	+8.15		
ナスダック総合指数	5,043.54	5,101.80	5,036.79	5,044.39	5,033.56	5,048.24	+4.70	+0.09%
騰落幅		+58.26	-65.01	+7.60	-10.83	+14.68		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は上昇しました。著名投資家のウォーレン・バフェット氏率いるパークシャー・ハサウェイ (BRK.B) が、プレジジョン・キャストパーツ (PCP) 社の巨額買収を発表したことなどがマーケットのセンチメント改善につながりました。

中国の人民元切り下げのサプライズを受け週の半ばにかけては軟調推移となった米国株ですが、今後も大幅な切り下げが継続するとの懸念が後退すると週後半に再び上昇しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



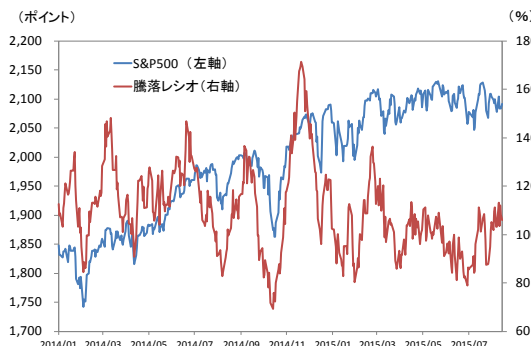
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.8	3.0	2.5%
S&P500	17.7	2.8	2.1%
ナスダック総合指数	22.3	3.6	1.2%

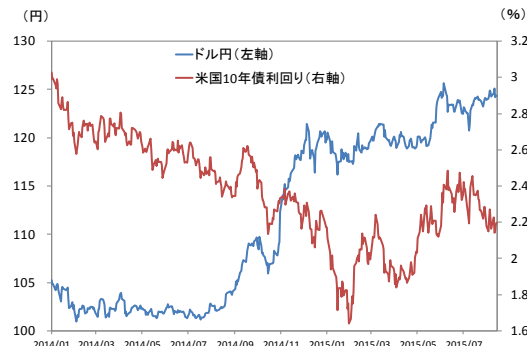
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年8月14日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

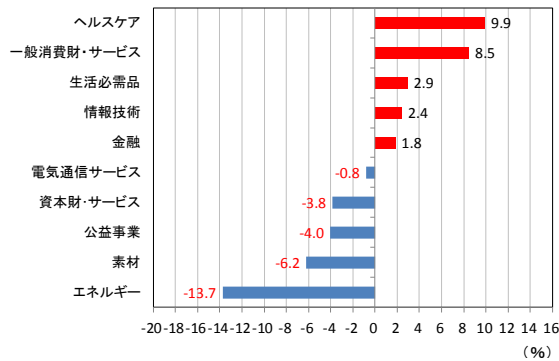
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

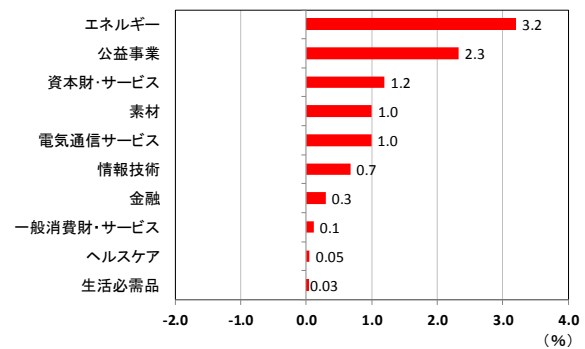
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(8/10-8/14)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CSCO	シスコシステムズ	3.1
CVX	シェブロン	2.7
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	2.4
HD	ホーム・デポ	2.4
TRV	トラベラーズ・カンパニーズ	2.1
MRK	メルク	2.1
XOM	エクソンモービル	2.0
BA	ボーイング	1.9
WMT	ウォルマート・ストアーズ	1.6
CAT	キャタピラー	1.6

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(8/10-8/14)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DIS	ウォルト・ディズニー	-2.0
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-1.2
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-0.7
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	-0.7
MMM	3M	-0.4
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-0.2
NKE	ナイキ	-0.1
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	-0.04

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中22銘柄が上昇しました。5-7月期の決算が増収増益となり、売上高が市場予想を上回ったシスコシステムズ(CSCO)が3%超上昇して上昇率トップとなりました。シェブロン(CVX)やエクソン・モービル(XOM)は原油価格が下落しましたが、売られすぎとの見方が出たようで株価は上昇しています。

<下落>

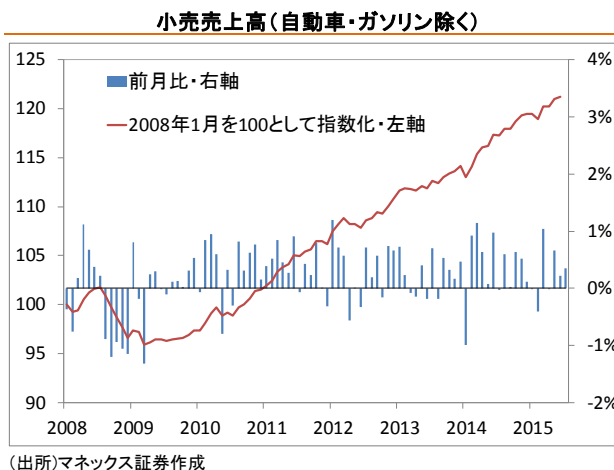
ウォルト・ディズニー(DIS)は前週に引き続いて下落率トップとなりました。ネガティブ・サブライズとなった決算発表の影響をまだ引きずっているようです。

先週発表された主な経済指標

小売売上高（前月比） 7月 +0.6% 市場予想 +0.6% 前月 ±0%（上方修正）
 除く自動車・ガソリン 7月 +0.4% 市場予想 +0.4% 前月 +0.2%（上方修正）

7月の小売売上高は前月から0.6%の増加で市場予想と一致しました。また、前月分がマイナス0.3%からプラスマイナスゼロ%に上方修正されました。変動の大きい自動車・ガソリンを除いた売上高は前月比0.4%の増加で市場予想と一致し、こちらも前月分が上方修正されました。

7月分の売上高が堅調だったことはもちろん、ネガティブ・サプライズでマイナスだった前月分が上方修正されたことは、米国の個人消費が堅調に推移していることを示唆するもので、非常にポジティブな材料と言えそうです。



今後発表される主な経済指標

7月開催分 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨

19日に7月開催分の連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨が公表されます。7月のFOMCでは事前の予想通り金融政策の現状維持が決定されましたが、利上げの条件について「もういくぶん労働市場が改善すれば」と事実上利上げのハードルが引き下げられたような感じになりました。

金融政策の現状維持は全員一致の決定ですが、FOMCメンバー間で利上げについてどの程度突っ込んだ議論が展開されたのか注目されます。

マーケットビューー—今週はFOMC議事要旨に注目—

先週のマーケットビューーでは、経済指標の改善を背景に中長期的に米国株は買える水準にあるのではないかと記しました。結果的にダウ平均は週間で100ドルほど上昇しました。

今週の最大の注目はFOMC議事要旨の発表です。9月利上げの可能性を高めるタカ派的な内容であれば米国株安につながる可能性が高いとみられますが、先週述べたことと同様米国経済の改善は継続しており、そうした局面は買いのチャンスであると考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会